



〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp

研修講座 生徒指導②

「教育カウンセリングで子どもと先生が共に歩む学校を築こう」

【講師】 大阪成蹊大学 米田 薫先生



8月2日（金）、講師に大阪成蹊大学 米田 薫教授をお迎えして、研修講座「生徒指導②」を実施し、米田先生からは、よい人間関係を築く構成的グループエンカウンターや、よい人間関係を築き、それを維持するために必要な知識や具体的な技術であるソーシャルスキルを磨くことについてお話をいただきました。

初めに、アクティブラーニング型授業の基本型であるシンク・ペア・シェアに3ステップインタビューを取り入れた5分間の協同学習を紹介いただきました。以下が学習の流れです。

(学習の流れ)

- ①問いについて1人で考える。
- ②ペアで相互インタビューする。
- ③4人組になって他己紹介（自分以外の人を紹介）する。
- ④全体で共有する。



この①から④のテーマをもとに体験しました。テーマはどんなことでもアレンジが可能です。このときは、「今、伊賀の子どもたちの現状で気になること」がテーマでした。②では、2人のペアになりおおむね1人30秒程度でテーマについて話し、③では2つのペア（4人）で交流します。その際、自分が話したことを再度話すのではなく、②でペアの人が話していたことを他己紹介のように伝えます。④では全体で交流し、指導者が適宜コメントを返します。

話し合いの後には、「どんな気持ちになったのか」と「その理由は何か」についてシェアリング（感情交流）も行いました。このシェアリングが大切であり、人間関係形成の根幹となることを学びました。講義の後半には、日頃から構成的グループエンカウンターを取り入れている島ヶ原小学校の北村公大先生から実践発表を行っていただきました。北村先生は、「やればやるほどよくなる」「構成的グループエンカウンターを実践する際、できれば、自分が体験しておく方がよい」などお話しいただきました。

今回の研修では、SNSが発達している現代においては、昔のように人間関係が自然発生的に生まれることはなく、学校でこういったスキルを身につけるきっかけを与えることが必要となっていること、気持ちを出し合える集団づくりのためには、日頃からコツコツ取り組み続けることが大事なことを貴重な示唆をいただきました。

アンケートより【一部抜粋】

- ・「このメンバーなら話せる」「自分のしんどいことを分かってもらえる」そんななかま関係を育てていくためには、日頃から授業の中でも自分の気持ちを伝える、「それっていいな、楽しいな」と思えるような経験を重ねていくことが必要だと思いました。(小)
- ・「子ども同士で自然発生的に話題が広がる時代ではない」という言葉が印象に残りました。今日学んだことを第1歩として、指導者が意図的に生徒同士の話せる機会を作り、より気軽に話せる学級や生徒の関係性を整えていきたいです。(中)